昭和53年度夏期研修会報告

立　花　誠一郎

期　日　昭和53年8月21日～23日
会　場　兵庫県立水産試験場

〔第1日〕　午後1時より開講式に続いて竹末敏男場長の講演を聞いた後，試験場の各施設を見学する。

講演の主な内容は，はじめに海洋における食物連鎖の説明があり，次いで領海200海里問題と昭和52年度の日本の漁獲高（1070万トンで世界第2位，6割が沿岸，近海，200海里内水面で獲られ，4割は遠洋）の説明があった。続いて水産資源確保のために現在，沿岸漁場整備開設法に基づき昭和50年より大規模増殖場造成事業，人工漁礁帯造成事業，保護水面造成事業，稚魚育成漁場造成事業が巨額の費用を投じて行われていること，栽培漁業が考えられクルマエビやガザミなどが放流されていること，そして将来は淡路に栽培センターの設立が計画されていること，現在は調査段階であるが10年位後には海洋牧場が実現するという話があった。最後に主題である水産公害特に赤潮発生の基礎的要因と誘発的要因および赤潮発生による漁業被害の話があった。

〔第2日〕　午前中は安田基研究員から海洋プランクトンについての概論と採集法ならびに主要な赤潮生物の説明を聞いた後，顕微鏡実習を行った。各種のプランクトンが観察されたが培養された海産ミドリムシ（赤潮生物の一つで魚のエラにあたると粘液状になり魚を窒息死させる）を見せてもらったのが印象的であった。赤潮生物の主なものは珪藻類，繊毛虫類，鞭毛藻類であるが，現在の赤潮の殆んどは Gymnodinium や Gonyaulux などの渦鞭毛藻や海産ミドリムシの Hornellia sp，である。

午後は船で岩屋に渡り大和島で磯採集をする。金沢龍先生より海藻の採集法と標本の作り方を聞き，先生の立派な標本をみせてもらった後採集にかかる。会員の採集したものにはユナ，イバラノリ，ツルツル，ユカリ，テングサ，クロソゾ，ミツデソゾ，トサカノリ，ヒメテングサ，スギノリ，コスジフシツナギ，イロロ，シラモ，コモングサ，オバクサ，コメノリ，ヒジキ，ヘラヤハズマコンブ，ナミノハナ，ハイウスバノリ，リボンアオサアナアオサ，ヒラアオノリ，アマモがあった。

〔第3日〕　伊丹宏三主任研究員よりタコの形態や捕食行動など生態の話とマダコの人工ふ化，飼育の苦労話とその間に行われた各種実験の結果についての説明を聞いた後，数班にわかれて解剖実習をした。話の中にでたタコの吸盤の力の大きさにおどろいたり，雌雄の区別を実際に確かめたり楽しく実習できた。

12時過ぎ，閉会式を行ない3日間の研修会を有意義に終る。

最後に会場を提供いただき熱心に御指導いただいた竹末場長ならびに研究員の方々に深く感謝いたします。

夏期研修会出席者

字加谷幸子	古河崎正昭	真野　省三	上中　一雄	赤沢　優和	中野　正道
甘中　照雄	田中　貞之	柳沢　利彦	栗山　哲也	岡田　愛子	小紫　敬三
大須賀康郎	辻　　彰一	宝田　礼爾	榎本　起制	盛谷　　浩	安房　　明
押川　利通	本田　善一	徳岡　延章	内波　秀一	垣内　欣哲	平田　忠夫
鎌田　　進	田中　光夫	前田米太郎	池田　　元	上岡　雅和	藤尾　妙子
大西　洋樹	村田　哲也	仲井　啓郎	東　　克彦	立花誠一郎	平畑　政幸
中川　　望	稲谷　利輝	黒田　嘉昭	当津　　隆	金澤　　龍	杉田　隆三
高島　千明	建　　武	坂田　映子			